

第5回「市長と話そうまち育てタウンミーティング」について（全体版）

- 1 日 時 平成26年7月29日（火）午後3時00分～4時40分
- 2 場 所 北上市民交流プラザ
- 3 参加者 北上中学校 吉武 大介 鈴木 信太郎
江釣子中学校 長谷川 陸 高橋 楓
和賀東中学校 佐藤 志衣真 高橋 大翔
上野中学校 佐藤 魁星 渡邊 星
南中学校 及川 貴史 菅野 由真
東陵中学校 菅原 昌彦 軽石 彩香
飯豊中学校 菅野 千涼 加納 伊吹基
和賀西中学校 柴田 祥吾 阿部 愛美
北上北中学校 梅木 萌花 及川 真奈加
- 4 市出席者 市長、小原教育長、松田教育部長、高橋学校教育課長
（事務局）及川広聴広報課長、同課 高橋課長補佐、石田主任
- 5 内 容 懇談テーマ①「市長への質問」、②「未来の北上市へ望むもの」に基づいた参加者からの質問に対し市長が回答した。その後は自由懇談とし、参加者と市長による意見交換を行った。

6 懇談内容

市 長：中学校の生徒会のリーダーのみなさん、ようこそタウンミーティングへ。私が中学生のころは野球部で部活動に夢中で、北上市が今後どうなるのか考えたこともありませんでした。それに比べてみなさんは生徒会活動に取り組んでいるので今後の北上市や岩手県についても考える機会があるのではないのでしょうか。今日はみなさんの質問にお答えしながら、みなさんの中学校生活がますます充実ための良い機会となるよう願います。よろしく願います。

(1) 懇談テーマ①市長への質問

北上中 吉武：なぜ市長になろうと思ったのですか。

市 長：一番難しい質問かもしれませんね。私は3年前までは建築の設計の仕事を一方で青年会議所だとかみちのく芸能まつりの実行委員会などに所属していました。地域で仕事をするためには地域のみなさんとコミュニケーションを取ることが大切ということと市全体が良くならなければ仕事も上手くいかないと考えたからです。

北上市では10年ごとに総合計画といってこれからの市の進むべき方向性を立てた計画を作っています。私もこれに携わってきました。昔の総合計画は行政が主体で作っていましたが、だんだんと市民の意見が盛り込まれるようになりました。しかし、市民の意見を盛り込むには様々な技術が必要です。私は20年以上にわたり、いわばそのお手伝いをやってきました。

さて、そんな折、たまたま前市長が引退されると聞いた私の仲間から今度

は市長としてまちづくりをしてはどうかと勧められました。私は市長や議員になることだけがまちづくりではないと思っていましたがせっかくそうしてもらえるのであればということで選挙に出ました。みなさんもこれから様々なお誘いを受けるでしょうが普段やっていることの延長だと思って、ちょっと足を踏み出すことが自分の人生の幅を広げますよ。それとまちづくりは学生でも働いていても、誰でも参加できます。与えられた環境で、それぞれの活動が泡立って今の北上市が形作っているのだと思います。みなさんも学校生活での行動が将来の北上市を作るのだと思ってください。

江釣子中 長谷川：市が抱える問題は何ですか。また中学生でも取り組めることはありますか。

市長：最近特に話題なのは人口減少と高齢化だと思います。北上市でも13年前の総合計画から人口減少を見据えた地方都市の在り方を自分たちで考えてゆくような計画を作っています。今までは田んぼや森林をつぶして開発を進めていました。その結果、街の中心部は上下水道や道路などのインフラに空きを生じているにもかかわらず、開発を進めてインフラを拡大させることが町の発展だとしていました。もったいないことですね。これを転換して今までのインフラを大切に使いながら足りなくなったら少しずつ作ろうとしています。もう一点、子育てや教育、医療等を充実させて少子化対策を市として作っていくようにしています。ここ10年来北上市で最もお金をかけているのは子育て分野です。またそれを支えるために産業、つまり働く場を用意する必要がありますね。

和賀東中 佐藤：北上市では体育館や総合運動場などの施設は充実していますが、様々な年代の運動能力を上げるための活動には取り組んでいますか。

市長：先日、岩崎小学校から夏油高原スキー場まで自転車で駆け上がる「きたかみ夏油高原ヒルクライム」という全国イベントを開催しました。また「ターゲットバードゴルフ」というバドミントンの羽をつけたボールをゴールに飛ばす競技や、フリスビーで行うアメリカンフットボールのような「アルティメット」など様々な競技を北上市では開催しており、幅広い年代の人たちが参加しています。先ほどのヒルクライムの参加最高齢は80歳で、私も59歳ですが参加しました。ちなみに私のタイムは1時間9分、80歳の方は1時間4分と私より速いスピードでした。ほかにもシニアスポーツ大会の県大会では北上市が6連覇しています。北上市は競技の場所だけでなく競技を運営できる団体もたくさんあるので、県内では一番環境が恵まれている所だと思います。みなさんもたくさんのスポーツにチャレンジしてみてください。

ちなみに9月にはアジアマスターズ陸上競技選手権大会という19か国3,000人以上の方が集まる大会が開かれます。北上市役所から棒高跳びの新記録が生まれたところでもあり、今後も子どもからお年寄りまで多くの方に参加していただきたいですね。

上野中：佐藤：北上の競技場に国立競技場のイスが来ることになったのはなぜですか。

市 長：みなさんは北上の陸上競技場がいつできたか知っていますか。1997年に2年後のインターハイの開会式及び閉会式に向けて作ったものです。15年以上経ったのでシートが傷んだりしています。再来年の国体開催にあたってはあまりお金をかけずに設備を整備しましょうというお話になりました。北上市においても競技に直接関係のある陸上競技場のフィールドなどは直しましたが、観客席までは直せないと思っていたところ、市民の方から国立競技場を解体するのでイスをもらってはどうかという提案があったので、早速国立競技場に申し込みました。また当初はイスの運搬にあたっては業者に依頼するつもりでしたが、せっかくだからボランティアで行ってはどうかという、またまた提案がありましたので、ボランティア総勢630人、うち岩手から230人、県外、主に東京から400人が参加していただいたわけです。外した座席に名前を書いてもらったりして、ボランティアの方からは、ぜひ取付けにも参加したい、開会式にも参加したいという申し出も頂きました。今まで活躍されたアスリートの方々の想いを大切にさせていただける方々の多さに驚き、ボランティアの方々と行って本当に良かったと思えました。実は残念なことに中高生のみなさんにもお手伝いいただきたかったのですが、夜行バスでの移動ということもあり実現できませんでした。取付けは来年の春に行いたいと思っていますので、もし可能であれば、なんらかのお手伝いをお願いできればいいなあと検討しています。

(2) 懇談テーマ②未来の北上市へ望むもの

南中 及川：私たちが中学校、高校、大学などを卒業したのち、地元に戻って働ける環境がたくさんあることを望みます。

市 長：そのとおりですね。地元で働きたくとも仕事がないのは困ります。北上市は岩手県内の住みよさランキングで1位です。これは雇用の確保が大きな理由であろうと思います。

北上市の雇用政策は80年くらい前に、予算を大きく振り分けて外から企業をたくさん呼んで来ようとしたところから始まります。当時は駅周辺の黒沢尻町が中心となって町を形成していました。といっても周辺は農地ばかりで中学校を卒業しても地元では就職できず進学するのでなければ農地を分けてもらって農業をするか、市外に行くしかなかったのです。そんな中、市内に残ってもらうようにと始めたのが企業誘致です。はじめはなかなかうまくいかなかったのですがその原因を探ったところ、教育だということになりました。企業が欲しい人材を育成するため、当時の北上市の年間予算の大部分を使って岩手県で2番目の工業高校となる黒沢尻工業高校を作り、優秀な人材を企業に輩出できるようになったのです。現在、工業団地及び流通基地は10箇所あって、今まで290社を超える誘致企業が集積しています。震災から4年経ちますが、その間も20社の誘致が決まり、今後1,000人以上の雇用が決まっています。高卒者の就職率はほぼ100%を誇っています。今後はさらに研究など高度な教育を受けた方々に対し雇用の場を作ることが必要ですので、大

卒者の就職ができるような政策が必要だと思えます。

東陵中 菅原：医療や福祉などをもっと充実させていただき、私たちもそうですが、年配の方も住みやすい北上市を作ってほしいです。

市長：さきほど住みよさランキング県内1位の話をしました。実は弱みもあって、それは病院や老人ホームのベッド数が他市と比べて少ないということと高齢者を支える仕組みの問題についてです。高齢者福祉は若い世代が高齢者を支えることで成り立っていますが、今後高齢者が増えて、若い人たちが減っていくと、昔は若者10人で1人の高齢者を支えていたのが、次第に5人で1人、のちのちには1人で1人を支えなければいけなくなります。福祉サービスに大きくお金をかけるということは、それだけ若い世代であるみなさんに負担をかけることにつながるため、そう簡単にはいかないというところもあります。特に誰かに決められた負担はなかなか払いたくないものです。もう数年経ったら、みなさんもぜひこれからの福祉を考える場に参加していただきたいと思えます。

飯豊中 加納：北上駅前が殺風景で活気がないと思えます。新幹線も通っているし、国体も行われるので、北上を象徴するようなお店や郷土料理店など商業施設も増やしてほしいです。

市長：そうですね。もっと活気があってもいいですよ。北上に東北新幹線が開業したのは1982年です。みなさんがまだ生まれる前ですね。新幹線開業前は駅の西口は製材所があったぐらいで、駅の東側も特に何もありませんでした。みなさんの親世代、祖父母世代の方が、新幹線の駅を作ろうという運動を行い、東京へ何度も陳情を行って盛岡、一関、北上に東北新幹線の駅ができました。やがて駅前に店舗や集合住宅が建設されて今の姿になりました。

ではこれからはどうなるかという、昨年ピアすわちょうのアーケードを撤去しましたが、今後は北上駅とさくら野百貨店をつなぐ道路を中心に車いすやベビーカーを押しても歩きやすい道路にしていきたいと思えます。2年後には国体と合わせて全国障害者スポーツ大会も行われますので、障がいのある方々が気持ちよく歩いてもらえるような道路を整備する必要があると思えます。行政は直接店舗を設計することはできませんが、店舗が入居しやすい環境の整備は行政の役割ですから、そこはしっかりやっていきます。みなさんもそういう町を歩いてもらえるとうれしいです。

和賀西中 柴田：和賀西地域は年々人口が減り、また公共施設が老朽化していますが補修が十分とは言えません。北上市は中心部のみの発展ではなく、周辺地域も住みやすく人が集まるような市にしてほしいです。

市長：素晴らしい提案ですね。自動車が發明されて100年、今ではどこに行くにも自動車が必要です。クルマ社会になると、街の周辺にある農村部の人口が減ります。それから中心部の人口も減って、人口がドーナツ状になります。これはどういうことかと言うと、例えば、バイパスができれば、そこにショッピングセンターができ、車が利用しやすい場所だけがどんどん発達して、中

心部も周辺の農村部も人口が減っていくことになるからです。これは今まで自動車に頼りすぎた政策をしてきたために起きた現象で、地方都市の病気と言ってもよいですね。欧米では早くからこれに気づいて対策をとってきたのですが、日本では気づくのが遅かったためにあちこちで見られるようになりました。

これを治すために北上市で進めている政策を「あじさい都市」といいます。北上は16の地域からなっており、地域ごとに歴史や地理的な条件、人口は異なりますので、今年と来年と2年かけて、地域の方々と将来像を設計していきたいと思います。

もう一つ、施設の老朽化について。これは和賀地区だけの問題ではないですが、非常に古くなった施設や道路、橋が市内のあちこちで更新できないでいます。これを危険なものから順番を決めて、取り壊すものは取り壊し、維持するものについてはしっかりと安全な状態に直していきます。特に橋などは危険なものから順に改修して安全に使えるようにしていきます。決して街中だけにお金をかけているわけではなく、順番に行っていきますよ。

北上北中 梅木：本校でも地域の一員として鬼剣舞の活動に自主的に参加している生徒がいます。この由緒ある伝統芸能である鬼剣舞を通じて世界に発信してはいかがでしょうか。

市長：いいアイデアですね。鬼剣舞の団体は、正式には認められていませんがオーストラリアにもあって芸能まつりにも来られるようです。鬼剣舞は海外の方々にとっても喜ばれています。また今年1月に沖縄県石垣市と友好都市の締結を行った際に岩崎鬼剣舞を披露したところ、大変喜んでいただきました。今度の芸能まつりには沖縄県の八重山高校郷土芸能部、全国高校総合文化祭に出場する団体ですが、参加してくれますので、みなさんも機会があればぜひ見ていただきたいです。鬼剣舞は北上のみならず岩手を代表する芸能ですからこれからもみなさんの子どもや孫の代まで伝えていかなければならないと思います。頼もしいのは北上翔南高校で、こちらも全国高校総合文化祭で最優秀賞を取っていますので今後も北上市を盛り上げていってもらいたいと思います。みなさんの中にも鬼剣舞をやっている方がいれば今後も続けていただきたいです。

(3) 自由懇談

和賀西中 柴田：市長が僕たちに求めるものは何ですか。

市長：何事にも積極的にチャレンジしてもらいたいと思います。リーダーシップとは何かとか、一人で考えないでできるだけいろんな人とコミュニケーションをとって進路の幅を広げていってください。進路についても今決める必要はないですから、様々な人と話をしてほしいですね。今は生徒会活動や部活動に一生懸命取り組んでいるのでしょうから。この場で生徒会活動とかリーダーシップとか、そういったことを聞いてみたい方がいれば、答えられるのは私だけではなくこの場にたくさんいるのでしょうから遠慮なくどうぞ。

上野中 渡邊：先ほど人口減少や少子高齢化についてのお話がありましたが、今後企業が中心となって発展していく中で自然破壊はせずに住みやすい北上市をより発展して行ってほしいです。

市長：提案として受け止めます。

北上北中 及川：公共施設の老朽化についてのお話がありましたが、北上北中学校でも特に校舎の老朽化が進み、雨漏りなどで困っています。また通学路の街灯が少なく、危険な個所もあるのでそういった対策も考えてほしいと思います。

市長：はい。よい提案ありがとうございます。しっかりと聞いておきます。

小原教育長：各学校とも大変不便を掛けているところがあり、大変心苦しいところがあります。通学路の安全についてもたくさんの市民のみなさんからご意見を頂いています。今年度は500万円を準備して通学路の歩道のカラー化に着手するところです。それから雨漏りの件についても課題はたくさんありますが、少しずつですが予算を確保して、みなさんの快適な学校生活のためこれからも努力しますので遠慮なくお話してもらえればと思います。頑張ります。

江釣子中 高橋：諏訪町アーケードについてですが、歩行者と自転車道の色が分かれており、すごく歩きやすいです。他の道路についても行っていただきたいと思います。

市長：歩道の色分けは安全のこともありますし、さっきお話したように車いすやベビーカーを押す方も快適に歩いてもらえるよう整備しているものです。また教育長からのお話にもありましたが、通学路の安全化についても早急に対策していきたいと思います。

和賀西中 柴田：最近、学校の校門や通学路の電柱にマイマイガが多く見られます。道路に死がい落ちていたりするので何か対策いただきたいと思います。

市長：なんとかしたいのですが、対策のやり方が分からないのが実情です。現段階で発生を抑えることができるか分かりませんが努力したいと思います。

飯豊中 加納：飯豊中学校のグラウンドに照明が無くて部活動の練習時間が限られています。照明をつけていただきたいです。

市長：しっかりと聞いておきたいと思います。

及川広聴広報課長：みなさん、各学校設備についての希望もたくさんあると思います。すぐできるかどうかは置いておいて、この機会にということであればぜひどうぞ。

和賀西中 阿部：冬になると私たちの学校は雪に覆われますが、登下校の際に除雪がしっかりと行われておらず大変な時があります。登下校時の除雪をもっとお願いします。

市長：たしかに西に行けばいくほど雪が深くなって、大変だと思います。早くきれいに除雪が行われるようしっかりとやっていきたいです。

江釣子中 高橋：北上市はスポーツに力を入れているというお話がありましたが、文化、芸術などの面についても積極的に活動していった方が良いと思います。例えば、学校では合唱とか。

市長：全くその通りだと思います。北上市は他市と比べても市民文化活動が積極的に行われていると思います。それが現れているのがさくらホールです。さくらホールは大小たくさんの部屋がありますが、毎日ほぼ100%の稼働率となっており、市民の方がそれだけ活発な活動をしているという証拠になっています。私が見る限り、県内では北上市と盛岡市の活動が盛んだと思います。盛岡市はややレベルが高いですが、決して北上市も負けてはいません。

菅野：北上市は総合運動公園などスポーツ設備が整っていますが、部活動などの用具を買うためのお店が少ないと思います。何とかありませんか。

市長：確かにその感じはありますよね。行政にその力はありませんが、私もスポーツをするのでもっとあればいいなとは思っています。何をやるとは言えませんが、同感です。

及川広聴広報課長：多くのご意見やご提案を頂きました。最後に教育長から本日の感想をお願いします。

小原教育長：本日は各中学校のみなさん、忙しい所ありがとうございました。また、校長先生や生徒会担当の先生方におかれては引率どうもありがとうございました。市長はこれまでたくさんの市民の方々と率直な意見交換を行ってきました。今回は中学生のみなさんの声を聴きたいということでお願いしたものです。多くの素晴らしい意見を頂くチャンスをもらったと思います。今日は本当にありがとうございました。学校に戻ったら、こんな話をしてきたという報告をしてあげてください。